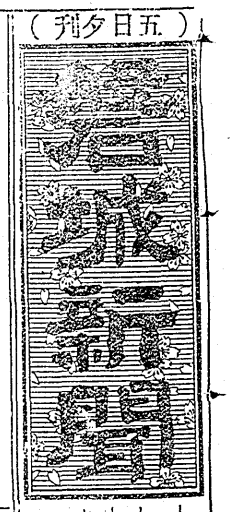
（五日夕刊）
大祭日第一第三日曜休
定價　一ケ月　一部二錢　郵税十五錢　六十錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢
福島縣平町田町十六番地
發行兼編輯人　鹽沼鼎
發行所　磐城新聞社
電話五六四番



平の映畫界（毎土曜日掲載）

二百萬ドル映畫と云ふ譯

小牧　靜兒

過般平館で上映された「アンクル・トムスケビン」「マチステのアルプス越ゆ」の二映畫は日本映畫ばかりにあいた人々に適時の公衆だつた。そこで「アンクルトムス・ケビン」を二百萬ドル映畫と云つた事に付いて何故そう云ふのかと考へて見た。（この場合二百萬ドル映畫と云ふ事はよく見受くる超々特作と云ふ樣な文句と同じ事と思つて居た）處が次の樣な數字を見てなるほどとその眞意が判つたである。之に依り二百萬ドル映畫と云ふ事がそうこちらした文句でない事がわかる

△撮影開始より最終場面完了に至るまでの製作日は實に十九月。

△之に雇はれた俳優の數二千四百五十七人

△撮影されたフイルム（ネガ）の長さ九十七萬七千呎、即ち一千卷出來上つた畫の約九十倍

△場面の數は三千五百三十一

△撮影の爲約二萬六千哩に渉る大ロケーションを行つた

△ミシシッピー河に上下する古風な外輪船ケートアダムス號を三ケ月借り受け十四人の技師が多數の船工を指揮し三週間で一八五〇年型に改め、ストウ女史の原作通り『ラ・ベル・リヴイエラ號』と銘打つた

△屋外大セット照明の爲、二二〇、ボルトから一〇四ボルトまでの電壓で二七〇〇アムペアの電流が用ひられた

△エリザが流水を渡る場面に使用する瀑布のセットを作る爲、二百萬ギヤロンの大タンクが用意され毎分二〇〇ギヤロンの速度で水を落下させ、三十七日間連續使用された

△降雪の實感を出す爲に使用するのは大抵の場合鋸屑だが、この畫に使れたのは全部コーン、フレークス（とうもろこしの果粒を壓乾した食物）で約二十四噸の朝食がフイになつたわけ

△積雪として撒いた石膏粉約四百噸

△春宵のロマンチックなムードを出す爲約二百噸のタイヤをいぶした煙面の効果は素晴らしかつたが此の爲俳優は大抵のどを痛めた

△セットに使用の木材約二十五萬呎ガラス約五千平方呎である

それからボラードは前半雪の夜、エリザの逃走、凍河の徒渉と犬の追跡、蒸汽船中エリザの愛兒ハリーの掠奪されるシーン等から後半ドブシーとエバーのエピソード。トムの終焉の家主レグリーの狂暴さ、北軍の南進等繼起するクライマックスに幾も力の入りを見せ巧みに感激的ラストに至る底力のある異常な迫力を持つ映畫だつた。もつと洋畫の上映を望んでやまぬ（完）

月の出を待つ

ロマンチスト

——小林直人君のこと——

松本　純一

千葉の押尾君から——いまから云ふものはた互ひに直ちやんは鎌倉へ療養にいつてる——といふ便りがあつて——直ちやんといふロマンチストが自分の貧しい昇華した事實を知つた。

僕は、この昇華したといふことさいロマンチストがてがけたウツイジョンぢやないかと思つたが——事實さいふ楯のため戰ふ意志のない自分を見出したにすぎなかつた。

素燒といふ廻覽誌で僕が詰らないことを喋つたので直ちやんが新感覺派の色彩もて反駁し乍ら爭論したことがあつた、妙なもので

やの氣分を出す爲約二百噸のタイヤをいぶした煙面の効果は素晴らしかつたが此の爲俳優は大抵のどを痛めた

△セットに使用の木材約二十五萬呎ガラス約五千平方呎である

それからボラードは前半雪の夜、エリザの逃走、凍河の徒渉と犬の追跡、蒸汽船中エリザの愛兒ハリーの掠奪されるシーン等から後半ドブシーとエバーのエピソード。トムの終焉の家主レグリーの狂暴さ、北軍の南進等繼起するクライマックスに幾も力の入りを見せ巧みに感激的ラストに至る底力のある異常な迫力を持つ映畫だつた。もつと洋畫の上映を望んでやまぬ（完）

紙上相談

簡單な事由で廢嫡六ケしい

私は本年三十二歳になる男子であります私が二十歳の時親戚から嫁を取りました今では子供が二人御座います、處が親がその嫁を氣に入りません、ために私まで氣に入らない樣になつてしまつたのです、それで私等親子を分家か廢嫡しようとしてゐるので御座います私は長男です次男か三男に相續させようとしてゐるので御座いますが戸主權又は親權で長男を分家又は廢嫡が出來るものでせうか、出來るとしたらその財産を幾分か廢嫡された私が取る事は出來ますまいか又私の方から身を引いたら財産を取る事は出來ないでせうか、廢嫡されたら親、弟等の間がらはどうなるものでせうか

（愛讀生）

本問に對するお答への前提として先づ廢嫡は如何なる場合に行はるゝやに付鳥渡述べませう

（一）民法第九七五條法定の推定家督相續人に付左の事由あるときは被相續人はその推定家督相續人の廢除を裁判所に請求する事を得

（二）疾病その他身體又は精神の片況により家政を執るに堪へざるべきこと

（三）家名に汚辱を及ぼすべき罪は因りて刑に處せられたること

（四）浪費者として準禁治産の宣告を受け改悛の望みなきこと

この御正當の事由あるときは被相續人は親族會の同意を得てその廢除を請求することを得

右の如く推定の家督相續人を廢除するてふことは固より一身一家に重大なる影響を及ぼすべければ廢除の原因たるべき事由を法律に豫定し置くは廢嫡の濫行を豫防し推定家督相續人の權利を保護するに付て頗る必要のことなり以上の次第ですからお尋ねの樣な單なる事由では仲々廢嫡は出來ませぬ又併し家督相續人自身が廢嫡を希望する場合は前述四項末段にある通り其他正當の事由云々を適用して廢嫡出來ぬこともありませぬこの場合としても財産の分與を強要することは出來ませぬ。尚親子兄弟等の身分關係に就いてはたとへ廢ちやくさるゝとも少しも變更を生じませぬ故に從日遺産相續開始すればその平等分配を受くる權利あり又刑法上尊屬親に對する刑の加重及親族間の故を以て告訴を待つて受理する犯罪事件に就いても少しの相違はありません

※……明日の吉凶……※

三月　四月　霞月　新月

八日　曆

一白　一家心を纏めて專心業務を勵むが安全の日△二黑　追々と盛運に向はんとする端緒物事焦るな△三碧　虛榮を慎み目上の言葉に從へば大吉となる△四綠　鬱氣散じて物事順調に進む外より内が吉し△五黃　位のみ高まりて實收は以外に少き日旅行凶△六白　事業も都合よく運び行き願望も成就すべし△七赤　我意を通さず萬事目上の人の言に從へば吉△八白　果斷にして迷ふ事なく成功の一日となる△九紫、必決せざる時は小事も手に餘る事となる

幕末奇傑高山彦九郎

講談

中西洋々作
布施長春畫

（104）

歸郷（四）

「甚作と云へば……」

とをちは、思ひ出したやうに云ひつぎました

「あの男は、全く善人に立ちかへつたといふ人の噂だが、そなたの教訓も、大部分泌みたと見える喃」

からいつて、彦九郎の嬉しさを裏書きしてくれました

「いゝね、それは私の教訓の力ばりではムいません」

彦九郎は心の嬉しさを包みきれずに、面を輝かし乍ら云ひつゞけました。

「それはみんなあの男の心人の眼方が殖ねたのぢやが、芽出度いと云へようが如何に善知識の教戒であつても、その教へをきかされるのにその教へを守るだけの意志の力がなかつたら到底善人に立ち返れるものではムいませんから……」

「いや、それはさうだが喃」

しかし甚作自身もそなたの息は決して忘れはせぬと、口癖のように云つて居るさうぢや、わしも、それを聞いた時は、どんなに嬉しく思つたか知れないよ」

長藏は、また、さうも云ひましたが

「ときにひこ九郎！」

ふいに改まつて長藏は呼びかけました

「實は、家へ行く節にそなたに一つ必得で證びてもらわねばならぬことがあるのぢやが……」

「は、と申しますと、どのやうな事でございませう」

そのをちの態度が餘りにもの〳〵しいので、ひこ九郎は不審に思ひながら、問ひ返しました

「實は何んぢや」

二三度、云ひ憎くさうにためらつて居りましたが、やがて斯う云つて言葉を繼ぎました

「そなたの兄の傳藏が、去年嫁を貰うたのぢやがな……」

「え！兄上が？」

ひこ九郎は流石にそれを聞いては祝つてやりたい氣になりました

「それはお芽出度いことでございますな」

「いや、とゝろがそれが一向に芽出くないのぢや」

長藏は、心もち聲をくもらせて

「それは傳藏としては、一向に芽出くないのぢやが、それは餘りの不孝ぢや。をち上は何故それを默つて見て居られたのでございます。何故、意見なされなんだのでございますか」

「さあ、それが意見をきく樣な女ではないのぢや」

長藏はまた大きく溜息を洩らして

「わしも一再ならず意見もしてみたが、しかしいつ私が組末にいたしましたと云ふて却つて喰つてかかられるばかりなのぢや」

かう云つて力なく聲を落しました

廣告

滋養劑の覇王
マルケイ　ヴイタミンに限然
平五　山野邊藥局

突前之御目見得
彌生第二之特別大興行
關東浪界日本一之名稱セラル
髭甲濟左虎丸師
外門下若手幹部數名出演
當ル四月六日七日兩日
午後四時花火合圖開場
聚樂館
出演者他數ニ付正ニ四時開場
入場料　各地壹圓之處
御當地初御目見得五十錢
後援　磐城時報社
援　磐城新聞社
左虎丸會

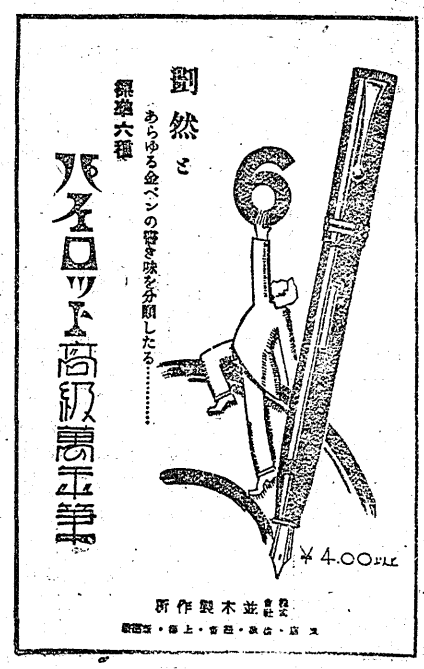
御試食なりましたか
一度おためし下さい……
鳥料理
純日本料理
出前は迅速
錦水
平町田町末廣東隣
電話四二一番
八〇三番

江戸前料理
合巻

電話賣物あり
又は電話買ひます
御希望のお方は左記に
御申込下さい
平町三丁目
文福堂書店
中世古清孝

平町
紺屋町
吉田眼科醫院

國産萬年筆の權威　五年間保險
其何レカハ必ズ何人ニモ的合スル製作上合理適ノ逸品ヲ推奨ス
◎學生用細字向　〇型二、〇〇　T型二、五〇　以上各種
御入學御進級ノ御祝トシテハ必ズ永久ニ喜バレル
平町字研町（公園前）
パイロット高級萬年筆
大特約店
圖書雜誌學用品ユハガキ
佐々木商店
電話二三三番



成田團体募集
一出發、解散
四月六日午前七時五分平發……十二時三十七分成田
着翌七日早朝大護摩修行並ニ
坊入ノ後午前十時頃成田解散
一會費　金八圓五拾錢
但シ片道汽車賃　車中壺食費、成田宿泊料及茶代
祝儀、特別大護摩修行費箱札代一等坊入料及祝儀
其他解散迄ノ諸費一切
例年ノ通リ右募集致候間至急御申込
下サレ度候
但シ會費ハ同時ニ御拂込ノコト
平町五丁目十一番地
大新築講元講
井上貞治郎
電話六六五一八

營業種目
内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負
其他
百
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（醫診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

藝者と男四人
生死尚ほ不明
泣いて捜し廻る 仲の母と主人

本紙昨夕刊所報……湯本町藝者屋蔦家の金太と豆子並に情夫二人の四人伴れの行衛については未だ一人の死体も發見されず殊に平潟方面の話によると二日夜遅く四名は雨降り中に某旅館の傘をさして前記八幡神社に辿ひどれ足で登つたのを見た者もあるといふが遺留品中には前記傘がないので投身自殺を裝ひ何れかに潜伏してゐるではないかとも見られてゐる、尚四名は二日平潟町某質店に腕時計三個指輪二個を入質遊興したもので原因は不明である

したが死なねばならぬやうな事情はないと思ひます

相當な家の 息子達
茂は一人息子

藝妓と共に家出した青年二人は何れも湯本町の相當の息子であるが若い豆子(二七)と手を取り合つた松雄長男茂(二四)は同家の一人息子で父母の驚きは一方でなく父は藝妓の抱へ主綠川方の人達と共に平潟に捜査に行き留守中の母はとんだ事が起つて氣がかりです一日夜十時ころ迄湯本町を歩いてゐたといふことです、何しろ話してゆかず手紙もなくあちらへ捜しに行つた父からの電話を待つてゐるのです、今日で三日になるが何の手掛りもない茂は後にも先にも一人で……と涙に濡れてゐた

出たまゝ
蔦家女將語る

別項家出行衛不明となつた湯本町藝妓金太(二〇)は昨年十二月十八日前借千三百圓年期五年の契約で豆子(二七)は昭和三年十二月十八日千五十圓七年仕込み前記本蔦方に抱へられたものであるが同家女將は語る

主人が留守なので詳しいことは申しあげられないが兩人共去る一日わたしが子供の入學で學校へ行つてゐる後でた座敷だといつて出たまゝなので二人共玉代十本つけて貰つたといつて行つたのでその當時は怪しみませんで

勿來の火事
汽車の飛火か

石城郡勿來町大字四澤農小野房義方より去る二日午前十時半頃發火し折柄の烈風に忽ち全燒し一時は勿來驛なると日中の爲め消防隊の活動敏活なりし爲め住家一棟にて鎮火した原因は同家裏を通る太日本炭礦用軌道小汽鑵の飛び火らしく萱屋根より發火せしものである

本縣醫師會の 學術講演會
來る二十日午前九時 磐中校堂に開く

福島縣醫師會學術部第七回學術講演會は來る二十日午前九時より平町磐城中學校講堂に於て開催することゝなつたが當日は左の演題より講演ある筈

臨床上並剖檢上興味ある粟粒組核の一例　渡邊　久(石　城)

野兎病病原体の染色性並に分離培養法に就て　原　重熊(石　城)

婦人科領域に於ける赤血球沈降反應に關する余の實驗　林　英郎(石　城)

產婦檢査に對する「ヤトレンカゼインシユタルク」の効果に對して　川彌太郎(石　城)

木曾乃胎兒(寫眞供覽)　關川　啓喜(東白川)

鼻腔に發生せる骨腫の一例に就て　增田　之(石　城)

所謂「リチャード」氏病の診斷に就て　藤本　順(石　城)

自家考案酒井式輕便縫合器供覽　酒井國三郎(石　城)

相馬郡にて散見せる肺ヂストマ症に就て　山田　弘(相　馬)

眼科臨床談　野池　菊司(安　達)

(イ)緣內障及完全緣內障に對する餘が常用の術式に就て

(ロ)白內障手術の注意

(ハ)結核性眼疾患の療法

發作症血色素尿症に就て　難波　陸(石　城)

人工氣胸療法の適應に關する誤解に就て　菅沼消次郎(福　島)

輸血の實驗　市原　陸郎(石　城)

「アチドーヂス」に就て　片岡鎌三郎(石　城)

乳糜尿の二例　猪狩　正雄(石　城)

福島縣に於る溫泉其他侵入せしチフス菌の生存期間に就て　渡邊　夏彥(福　島)

脾脱疽病發生の疫學的觀察　渡邊　夏彥(福　島)

◆特別講演

高血壓に於て　佐々　廉平博士

近代激增せる虫樣突起炎に就て　茂木藏之助博士

大津よいとこ節
市原陸郎作歌

平町市原醫院副院長市原陸郎氏が常住する茨城縣大津町を紹介する爲めに新作した「大津よいとこ景氣節」を紹介すれば

一度は越しよ　五浦の錦　岩洞へ　とぐら磯邊の　迷ひ壺

「大津東町」と　ナイラを　避けに　記す馬蹄觀世音　は　この町よ

いはれゆかしや　掬水の井戸は　あれは巡禮の　泪水

波止場目がけて　寄せくる船は　鰯積んだる　あぐり船

骨身惜します　稼いだ汗は　みんな御國の　黄金となる

苦勞しやんすな　た主の　疲れ　晩にやわたしが　みほぐす

載せて見度いよ　あの娘の肩に　重い萬漁を　山盛りに　鰯蒸籠を　二人でもてば　赤いてがらが　ニコ笑む

大津小唄を　きくかぞ鷗　艫櫂かすめて　群れ遊ぶ

ハアー大津よいとこ　唐歸り負つて　假寢手枕アノ松ケ崎　アエンヤラサーノ　ヨイトコセ

大津よいとこ　西窓開け　ちりや　神の浦風　そよ〜と

夏は御座れや　大津の濱に　金佛まがひ　燒いてやる

大津名物　煮干にわかめ　あはび蒲鉾　鰹節

わしと來さんせ　大津の濱へ　魚かせ〜

抱いて寢る　邵峰山から　大津を見れば大津女子衆が　鰯は〜　米が鰯か　鰯が米か　大津濱邊に　米の櫃

丹精なもんだよ　大津の男女は　鰯こね〜　金貯める

三日見ぬ間の　櫻じやない　日々に開ける　大津町

俺の在所は　茨城一よ　景氣よいのと　人の好さ

飲めや歌へや　大漁の祝　捕れた鰯が　五千兩

どうせやるなら　俵杓で　明日の大漁の祝

色氣ぬきにて　大津の煮ぼし　隅から一イ二ウと　數へなんせ

わしの連衆は　仁井田の沖で　雨にしよぼ〜　鰯とり

底も知れない　千尋の海　可愛い主さんは　鰹釣り

濱に來たときや　思案はおよし　どうせ一夜じや　歸しやせぬ

大津よいとこで　浮氣がやまざ　村田冷藏庫で　冷やさんせ

退休職の小學教員
石城郡下の氏名

石城郡下町村小學校教員にして四日附休退職を命せられたもの左の如し

山田尋訓　秋山　健藏　湯本　尋訓　鈴木　光吉
同　同　折笠　キヨ　泉　訓導　鹽　光雄
錦　同　鳴松　治　同　尋訓　宮內　久枝
勿來　訓導　大內　勇　鹿島同　四家　秀男
上遠野同　尋訓　鈴木　フク　江名同　渡邊　清
同　尋訓　永瀨　龜治　好間同　國　唯
入遠野同　新妻留次郎　同　同　吉田
同　訓導　太平ハルノ　同　尋訓　緒形　濱治
同　尋訓　清水　保民　平第一同　訓導　本田　利男
田人　訓導　黑木　政　同第二同　訓導　根本　邦吉
同　同　岡部シゲヲ　同　同　丹野キヨノ
同　同　齋藤　つね　同　同　木村　宗宏
同　同　麻生川文子　鈴木フミ子　澤　渡尋訓　長谷川熊次
下三坂同　野木　フジ　鹿島同　泉　訓導　齋藤　美子
宮田　久枝　好間尋高准訓佐藤はるち　勿來尋高准訓　鳥居なか
同　代出　大平　重美　川部　同　秋田　信男
入遠野代教　芦間　直正　田　人同　濱津　二郎
同　尋常同　鵜沼　貴道　同　尋常准訓　仲里勝利
同第二代用　大越久五郎　同　代教　橋本　勳
同第三代用　大平　郡治　同　同　大越はつよ
內　郷同　生江　三江　磐　崎准訓　小林　清河
川　前同　須藤武憲　川部　准訓　草　野同
赤井第一准訓　金子德太郎　入遠野代教　芦間　直正　箱崎　八郎
同第二代用　志賀たまの　田　人同　濱津　二郎　大　浦代用　磯上　睦男
高　久代用　坂本たかの　赤井第一准訓　須藤武憲　大　野代教　渡邊　せい
夏　井准訓　鈴木はつよ　同第二代用　金子德太郎　渡　戸准訓　鈴木　久吉
神　谷同　草　野同　箕輪第一同　三部　りん
桶　賢代用　根本はつね　泉　同　小野　直賀
玉川教授囑託　星野ひで

衛生功勞者
鈴木氏に傳達式

平警察署では今五日午前十時より衛生功勞者として小柳知事より表彰された平町田町衛生區長鈴木寅次郎氏に對し表彰狀と金一封の傳達式を擧行したが平署管內で表彰を受けた人は二名である

郵便貯金に現れた 炭礦方面の經濟
之れ以上は馘首せぬ 常磐の各炭礦

常磐各炭礦は昭和五年度の鐵道省納炭契約は一噸四十五錢づゝの値下げとなつたので一般商品炭も噸七八十錢づつの値下げを餘儀なくされたので打撃は相當に深刻である、隨つて各炭礦は更らに役員坑夫等の馘首を斷行するではないかと取る外進んで馘首する如き事は絶對にせない方針であり今年間郵便局に就いて炭礦勞働者方面の金の出入りを親ふと同局に於ける昭和三年度の一般出入金は八十萬圓を超えたのに

昨四年度は二十萬圓を減じて六十萬圓となり坑夫の貯金は昭和三年度受入二十餘萬圓が昨四年になつては十九萬圓未滿に減つたのに見て炭礦方面の景氣を知る事が出來る

沙汰されてゐるが各炭礦とも今日迄は既に完全な

入員整理を行ひ濟せる如きことは絶對にない唯だ昨年春頃まで積極的に募集してゐた坑夫の新雇入契約は茲暫らく見合はせ去者は追はず式の消極的による外進んで馘首する如き事は絶對にせない方針であり今年間郵便局に就いて炭礦勞働者方面の金の出入りを親ふと同局に於ける昭和三年度の一般出入金は八十萬圓を超えたのに

昨四年度は二十萬圓を減じて六十萬圓となり坑夫の貯金は昭和三年度受入二十餘萬圓が昨四年になつては十九萬圓未滿に減つたのに見て炭礦方面の景氣を知る事が出來る

石城產馬の 駒耀成績
石城郡產馬畜產組合の中寺

駒耀成績は三十日(第一日)四百四十九圓最高九十圓最低錢二百四十九圓平均四十四圓五十二錢で其の比較して四割强と言ふ大が農村方面に大影響を與へ慘狀である第二日目(三十一日)四十九頭總價格二千十圓最高八十一圓最低二十圓平均四十八圓十六錢二厘で此れも同樣四割强で其のめじめさは目も當てられない原因は不景氣內閣の手取り、即ち賃收入はその八九割に過ぎないといふみじめさ、從つて三四人の一家を支へやうとするには酒など勿論のこと好きな煙草なども喫事が出來ずに只もう飢を凌ぎ得るだけだ、止むなく一家內中の働ける者は所に來るものは幾分減つたが然し賃銀は辨當持で男八十錢、女四五十錢といつた安さであり、遠方もない安さであり、みならず所謂親分なるものは賃銀の頭を刎られるので、

益々下る一方の 平町地方の勞銀
慘めな勞働者

取り付けを急ぐ 松ケ岡の常夜燈
千個以上に達す

平町消防組では花見時に當て、町內の景氣を引立てるため松ケ岡公園に廣告附の裝飾燈を取付くべく準備中であるが消防組が主催すると云ふので評判よく申込みも相當に多くぼんぼりなどは豫定の三百燈に突破し五百燈にも達したので申込みに應じられず提燈に變更することになつた。こんな具合で松ケ岡には千以上の裝飾燈が點せられ全く不夜城の美觀を現出するわけである、尚右裝飾燈は近日中に取付けを終へる筈

神谷校長が 視學に
世二才の少壯

石城郡神谷小學校長より本縣視學に榮轉した澤田榮氏は今年漸く三十二歲の新進の士で劍道は三段であるが單なる一片の武骨者にあらず文藝を解し極めて學究的な人であり縣視學としての今後の活動は見るものであるといはれてゐる

神谷同氏は大正八年の本縣師範學校卒業生であると

「錦水」好評
江戸前料理の粹

平町田町末廣となりに新らしく綺麗に出來た江戸前料理食堂「錦水」は從來末廣の板前として評判を博した吉田喜久平氏の經營で自ら包丁をとり腕に自慢の調理によつて僅かな勘定で然かも江戸前の料理を手輕に味ふことが出來るので開店早々非常な好評を博してゐるが出前は多少に拘はらず迅速丁寧をモットーに花時を控へ大馬力をかけてゐる

岡田華悅女史
華道の傳授

平町仲町三番地(稅務署裏新川通り)華道教授天水庵岡田華悅女史は家元龍生派池の坊の生花、盛花、投入自然等を教授し平町並に各地に多數の門下生を有し懇切丁寧に教授してゐるが女史の生花教授の目的は營業でなく趣味として研究し之れを一般に傳授するので他の及ばない强味と門下生の多大なる便宜とがあり多忙を極めてゐる

鑛業稅移讓 運動
代表者が上京

石城郡下各町村では鑛業稅の町村移讓請願の運動を起し數年來猛運動をつゞけて來たが來るべき臨時協會に提出飽くまで通過を計る可く代表者として根本赤井、小泉湯本町長は五日上京運動を開始したが若し之れが實現となつて恩惠を浴する町村は湯本、赤井、好間、磐崎、山田、勿來その他で非常な福利である

◇常設館だより

◇平、館　阪妻映畫「死村大吉」中野濱口主演「魔天樓愛慾篇」光岡主演「山

春帽！！
皆樣の御氣に召す
モダンな型
スマートな色合
中折
鳥打
子供帽子
平町四丁目
ツルヤ
電一四〇

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三(電話五四一番)
華道教授
天水庵　岡田華悅

世は三行の春
花は松が岡
花の松ケ岡を一眼に見渡す公園向良善寺下に初音三益合同賣店を設けました
座席無料　お一人樣より百五十人樣迄も設けてあります
演舞場
御用の御方は一日前電話にて御申付下さい
花見折詰、洋食、日本酒ユニオンビール、サイダー特價
松ケ岡公園向良善寺下　初音三益合同賣店

御料理
老海勢伊
本場
立献御
ラブスターフライ
ラブスターバリージャン
ラブスターアメリカン
ラブスターテルミドル
其他ソセージ各種
平町田町
井の一
電二六七

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…　電一二四番